



運の調整効果

5月から梅雨にかけて、菜園の作物は芽生えと生長の季節を迎えます。イチゴ、ニンニク、タマネギ、ジャガイモ、アスパラガスが、順次、収穫対象となります。トマトやキュウリ、ナスなどは成長期。日に日に大きくなります。ほかにも、植えていない野菜が顔を出します。ニンニクの畝にジャガイモが、小松菜の畝に紫蘇やトマトが出てきます。

昨年のもので、興味を湧いたので、作物が種を落とす場所を観察しました。



まず、尺取り虫のように少し離れた場所に種を落とすものがあります。ネギ、タマネギ、ニラ等です。彼らは、生長した根株から芽を出し増殖しますが、同時に、「葱坊主」を作り、茎が倒れることによって、根株と離れた場所に種を落とします。40cmほどの距離です。したがって、ネギやニラは、隣の畝に新しい苗が出てきます。根株でじわじわと生長し、葱坊主で跳躍的に勢力圏を広げます。

次に、前年と同じ場所に発芽するものがあります。紫蘇やトマト、収穫し忘れたジャガイモがそうです。青紫蘇が1本だけあった場所に、100本近くが発芽しました。それを間引きして2本だけ大きくするのが今年の計画です。トマトも同様です（本数は、多くありません）。

最後に、アスパラガスは不思議な処に芽を出します。アスパラガスも、根株と種で増えるのですが、そのほかに、昨年、アス



▲自然に芽を出したアスパラガス

パラガスがなかった場所にも芽を出します。今年は10本近い苗が確保できました。鳥か虫が運んだとしか考えられません。

自然に生えてくる作物は、畝ごとに棲み分けてはくれません。好きな場所で相互に入り組み、太陽を求める競争を始めます。100本の青紫蘇も淘汰され、大きくなるのは2～3本でしょう。

作物は各々が自分の居場所をめぐって、競争をしているように思えます。可能な限りの種をばらまき、よい居場所を見つけた種だけが発芽・成長できる。運の良さを競っているように見えます。ときどき畝を耕したり、苗を移植したりする筆者は、種から見れば運命の調整者です。そんな眼でみると、ローテーションには苗の移植と同じ「運の調整効果」があるのかもしれない。

(MBO 実践支援センター代表)